

『健康経営ガイドブック』改訂を踏まえた これからの健康経営の実践

健康経営優良法人認定事務局

健康経営とは、従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践することである。企業理念や方針等に基づき従業員等へ健康投資を行うことで、従業員の活力向上や生産性の向上といった組織の活性化が図られ、その結果、業績や企業価値の向上につながる

と期待される。

わが国では少子高齢化に伴う人材不足が年々深刻化している。また労働安全衛生法の改正や働き方改革関連法の制定、女性の健康や介護・育児との両立に関する施策の立案など、労働に関連する法制度も変化してきた。こうした企業や従業員を取り巻く環境の変化を踏まえ、日本経済新聞社が運営する健康経営優良法人認定事務局は2024年度に『健康経営ガイドブック』の改訂を行った。このガイドブックは、健康経営の概念を伝え実践を促すために、健康経営度調査の開始とともに2014年度に経済産業省により作成されたもので、2016年度には健康経営優良法人認定制度の創設に合わせて、健康経営の評価・情報発信を追加した改訂第1版を発表し

企業の健康風土の醸成状況を 確認しながら健康経営を 継続的に実践

今回の改訂では、健康経営が企業にもたらす効果を整理し、ガイドブック内において健康経営の視点から、「人的資本」「社会関係資本」を定義した。前者を「個人のスキル、能力、健康状態、従業員の仕事に対する心理的な状態」、後者を「従業員間や組織内の相互の信頼やネットワーク、心理的安全性が高い関係性」とし、さらに、健康経営は「人的資本と社会関係資本の二つの無形資本への投資を通じて企業価値を目指す手法」であり、人的資本経営の土台となるものとした。

また、無形資本の形成・蓄積には「企業の

企業の経営方針と健康経営の 推進方針の連動が重要

健康経営は、従業員等の健康管理を経営的な視点で考える経営手法である。よって企業の経営方針と健康経営の推進方針の連動が重要となる。今回、健康経営の実践手法について、①経営方針に基づく健康経営の推進方針・目標とKGI (Key Goal Indicator) の設定、②経営層のコミットメントと専門性を担

保した組織体制の構築、③目標を達成するための具体的な推進計画策定・実行、④目標達成状況を踏まえた次のアクション・計画の検討というPDCAサイクルを回していくことと整理した。①において、企業の経営上の課題や実現したいことに基づき、健康経営の推進方針、すなわち健康経営を通じて何を実現したいのか、を設定することが重要であり、

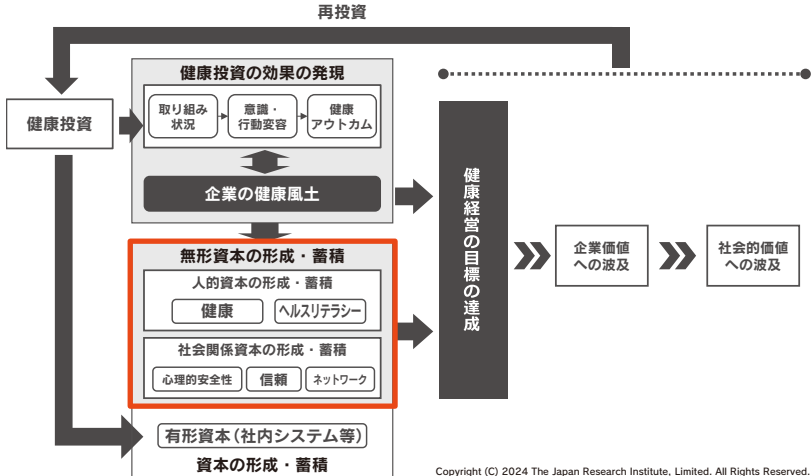
あわせてこの方針を実現するために達成する健康経営の目標と、目標の達成状況を確認する指標であるKGIを、年限も含めて定めることも必要となる。

例えば「安全にお客さまを目的の地まで輸送する」という経営方針を掲げる運輸業を営む企業においては、この経営方針を実現するために健康経営の推進方針を「心身共に健康な従業員による運行の実現」とし、これを実現するための目標を「健康に起因する事故発生をゼロにする」、KGIを「睡眠で十分な休養が取れている従業員比率を2027年度までに●%とする」と設定することが考えられる。

健康経営のストーリー可視化には 戦略マップが有効

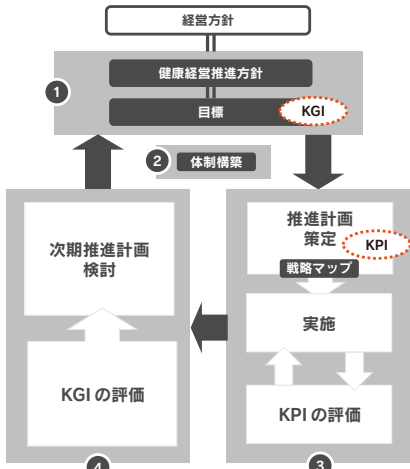
戦略マップは、作成することで健康投資の目的や効果を明確化し、また健康経営の推進

図表1 健康投資による人的資本・社会関係資本の形成・蓄積



Copyright (C) 2024 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

図表2 健康経営の実践手順



Copyright (C) 2024 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

今回、10年間の環境変化や健康経営実践から得られた知見の蓄積からガイドブックを改訂した。このガイドブックが、健康経営に取り組む企業の皆さまの悩みや困りごとの解決の一助となれば幸いである。また、これからの10年も様々な環境変化や、健康経営実践の中での学びや発見があると考えられる。健康経営の実践や議論を通じて得られた気付きについてぜひ健康経営優良法人認定事務局にもお寄せいただき、さらなる健康経営の発展につなげていきたい。

（執筆・健康経営優良法人認定事務局
日本総合研究所 高橋洋絵）